

5.19

■司会 鍵谷剛一郎〈福岡県〉 福岡県立社会教育総合センター 社会教育主事  
 永楽 悦子〈大分県〉 大分県教育庁生涯学習課 社会教育主事

## 1. 有明海総合イベント事業「ガタリンピック」の成果と「フォーラム鹿島」のまちおこし戦略

10:45~11:10

土井 敏行〈佐賀県〉 フォーラム鹿島 代表世話人

ガタリンピックは昭和59年の創設以来、長年の創意・工夫を積み重ねて、有明海の干潟を活用した総合的なイベントに成長している。事業の実施による地域活力の醸成はもちろん、交流人口の拡大、国際交流や修学旅行に活用するなど新しい地平線の開拓にも成功している。異業種が連携した実行組織の「フォーラム鹿島」は、長期継続事業の難点である企画・実行役員の世代交代にも上手に対応し、蓄積された経験と新しいエネルギーを総合的に組み合わせている。キーワードは「プロ市民」育成である。

## 2. 「火の島太鼓」の13年

11:10~11:35

—人づくりにおける活動の展開と転換、そのタイミング—

竹ノ下武宏〈鹿児島県〉 桜島火の島太鼓保存会 会長

「火の島太鼓」は昭和63年の「国際火山会議」を機に創設されたものである。以来13年、週2回の定期練習は欠かすことなく行なわれ、地元の祭りやイベントに出演し、年間50回をこえるステージをこなしている。最近では外国人メンバーや町外の参加者も増えている。後継者の育成については小・中学生を中心とした「子ども太鼓グループ」が結成され、活動継続の基盤も整いつつある。グループの活動、そこで活動する人々を長期維持していくためには、短期的な方策と長期的方策の組み合わせが必要であることが明らかとなった。

## 3. 手づくりの「ふるさとミュージカル」

11:35~12:00

—町民音楽祭によるまちづくりの道程—

岡田浩四郎〈鳥取県〉 鹿野町民音楽祭実行委員会 実行委員長

鹿野町音楽祭「手作りミュージカル」は今年で15年を迎える。初めは作曲や演出はもちろん多くの点でプロの手を借りねば実施は困難であったが、経験の蓄積と意欲の拡大に伴って、町民の町民に対する指導が行なわれるなど、文字どおり「手作りの」ミュージカルへと成長してきた。また15年の歳月は音楽祭に関わってきた子どもたちに「ミュージカル効果」を生み出し、成長した子どもたちが演出や大道具づくりに関わりながら次の世代の養成に取り組むようになっていく。音楽祭に直接関わらない町民の理解と協力も一段と広がり、地域の教育力の向上に予想を越えた効果を上げている。

## 4. 総括討論

12:00~12:30